



震災からの復興を願い

街にあふれる笑顔

仙台・青葉まつり

杜の都に初夏を呼ぶ第28回仙台・青葉まつりが、5月19日～20日、仙台市内を会場に行われ、95万人が祭りを楽しんだ。

昨年は東日本大震災により中止となったが、山鉦巡行、すずめ踊りなどを通して、復興を願う多くの市民の心が一つになった祭りだった。踊り手のどの顔にも笑顔が溢れ、子どもに太鼓のバチを渡し、観客と一緒に楽しむ場面も。

七郷にお住まいの今野さん(71)は、震災でお宅が半壊となり、深沼に住んでいた甥など親戚8人を亡くされた。“七郷小町チーム”で祭りに参加して7年になるが、昨年7月から練習を再開したという。震災直後は落ち込む日々だったが、祭りの音楽になると自然に体が動き、日常を楽しめるようになったとの事だった。自宅は半壊の状態でも修理して住んでいるが、木造で古いため、いつまた地震が来るか心配とのこと。それでもチームで、仮設住宅や老人ホームに“すずめ踊り”で、慰問活動を行っているという。敬老乗車証をみせてくれ、「若くはないけれど、踊る事が励みにもなるし、少しでも市民のみなさんに元気を届けたい。」と話してくれた。

大鯛山鉦（五穀豊穡と大漁豊饒、街の発展の願いを込めて巡行・阿部蒲鉦）



笑顔

仙台の大通りを踊りながら進む踊り手のみなさん、どの顔にも笑顔が溢れ、多くの人を元気にしてくれた。



七郷小町の仲間と（左が今野さん）

今年の祭りは本当によかった！

泉区泉ヶ丘の高橋正さん(84)は、開口一番「今年の祭りは本当によかった」と。震災の後ということもあるかもしれないが踊る人の一生懸命さが伝わってきたとの事。踊り手が通るたびに大きな拍手を送っていた。日曜日以外は、ペタンクの練習で全国大会にも参加した事など話してくれた。



高橋正さん

